

— コ・メディカル・レポート —

妊婦が求める母親学級への改善にむけて

三 浦 香奈子, 田 上 晶 子

はじめに

少子化, 核家族化, 医療水準の進歩に伴い妊娠の管理分娩が医療機関で行われ, 妊娠, 分娩, 育児の知識は母親学級等で得る事が多くなっている。しかし, 時代の変化と共に医療者から一方的に教わるだけではなく, 妊婦自身が様々な情報源を活用している。そして, 母親学級においても従来の講義型より, 体験を取り入れた参加型が普及してきている。妊婦, 褥婦を含む家族からの要望や意識を把握し, 参加型母親学級にむけカリキュラムの再編成を行うことを目的として調査を実施した。

研究方法

- 1) 調査期間: 2003年11月1日~2004年1月30日
- 2) 対象: 当院で分娩した褥婦 117名
- 3) 方法: 当院で行われている母親学級(表1)に対してアンケート調査を行った。表2の内容でアンケートを作成, この研究の主旨を口頭で説明し同意を得た褥婦に配布した。病棟内に回収ボックスを設置し対象の自由意志でする方法で行った。データは統計処理を行い, 個人の結果が明らかにならないことをアンケートの内容に文書で添付した。

結 果

褥婦へのアンケートは, 配布 117例, 回答 87例(回答率 74.3%), 有効 71例(有効率 81.6%)であった。初産婦 41名(57.7%), 経産婦 30名(42.3%)であった。母親学級を1度でも受講したことがある人は, 初産婦 34名(82.9%), 経産婦 18

表 1. 母親学級の内容

I 課	妊娠の生理と異常の対策
II 課	妊娠中の過ごし方と栄養
III 課	お産の経過と準備
IV 課	お産を楽にするための呼吸法と妊婦体操

全 IV 課, 毎週 13:30~, 各課 1~2 時間
1 回/月ずつ (III 課のみ 2 回/月)
当院大会議室にて開催
夫立会い分娩希望者においては全課受講の上,
夫の III 課受講を義務付けている。(2004 年 3 月
現在)

表 2. アンケートの内容

母親学級の受講状況
母親学級が理解できたか, 満足できたか
母親学級を受講した理由, 受講しなかった理由
母親学級で知りたい項目, 実際役に立った項目
母親学級の希望回数, 1 回の希望所要時間
母親学級の改善点, 理想の母親学級

名(60.0%)であり経産婦の受講率が低かった。図 1 において課別の受講率は I 課 36 名(50.7%), II 課 38 名(53.5%), III 課 44 名(62.0%), IV 課 50 名(70.4%)と III 課, IV 課の分娩に関する課の受講率が高かった。図 2 で母親学級を理解できたと答えた人は, I 課 33 名(91.7%), II 課 37 名(97.4%), III 課 42 名(95.4%), IV 課 47 名(94%)であり, 各課で大差はみられなかった。また図 3 では満足できなかったと答えた人は I 課 5 名(13.8%), II 課 3 名(7.9%), III 課 4 名(9.1%), IV 課 7 名(14.0%)であり, III 課, IV 課の満足度がやや低かった。図 4 の受講理由については, 「分娩について知りたい」40 名(76.9%)と圧倒的に多かった。続いて図 5 の未受講の理由は, 「時間がないから」が, 初産婦 3 名(42.9%), 経産婦 9

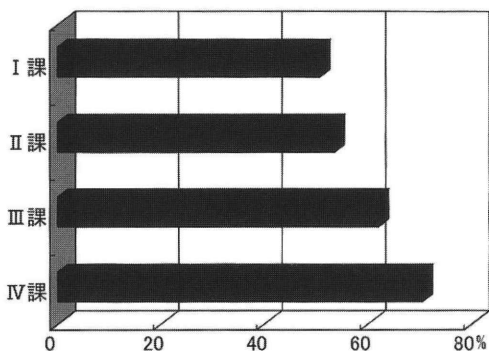


図1. 母親学級の受講率

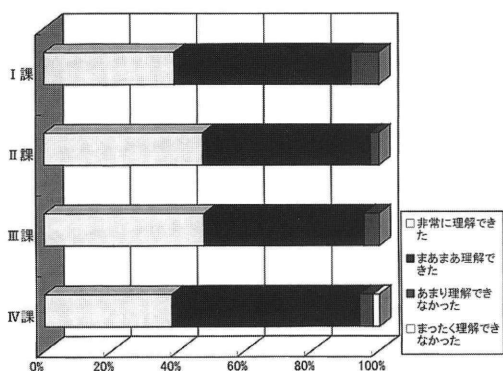


図2. 母親学級の理解度

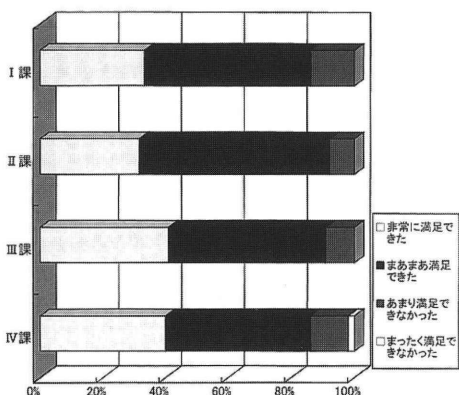


図3. 母親学級の理解度

名 (75.0%)であった。経産婦では、「子供が預けられないから」4名 (33.3%)であった。妊婦の知識要求については、図6で示す通り「分娩に関すること」が比較的多く、次いで「胎児の状態」「妊娠

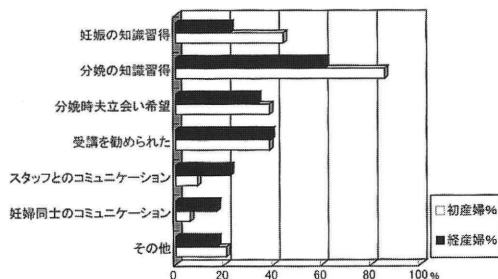


図4. 母親学級の受講理由 (重複回答)

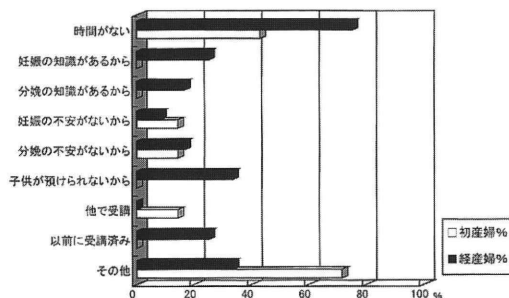


図5. 母親学級の未受講理由 (重複回答)

中の異常について」「新生児について」であった。また図7の実際に役立った項目については「分娩に関すること」「妊娠経過」「妊娠中の乳房の手当て」「ベビー用品の準備について」が多く挙げられた。

母親学級の希望回数は、平均3.57回、1回あたりの平均時間75分、総時間の平均は265分であった。改善点については、「出産・育児の体験談を聞けると良い」「妊婦同士のコミュニケーションがとれるようにしてほしい」等があげられた。理想の母親学級については「少人数制」「ママ友達ができる場」「妊婦同志・スタッフとコミュニケーションがとれる」「実体験の話が聞きたい」等があった。

考 察

妊婦は産前より様々な不安を抱えている。正しい情報を得ること、また他の妊婦や医療スタッフと関わりがもてる母親学級は不安の軽減にも期待が持てる。今回、効果的な母親学級開催のために対象が求めていることを把握するうえでアンケー

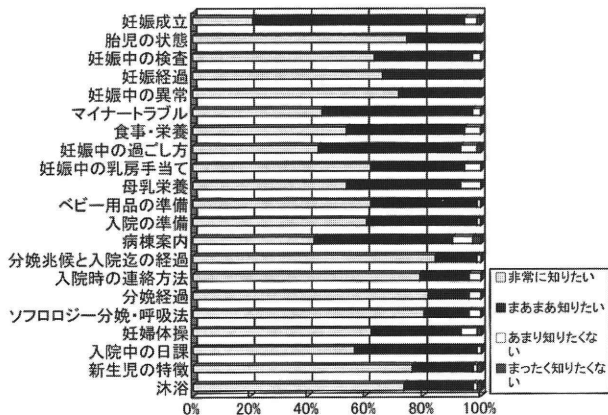


図 6. 妊婦の知識要求 (重複回答)

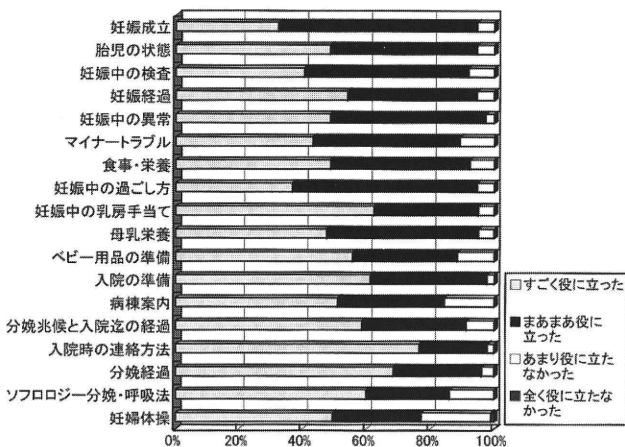


図 7. 母親学級の役立ち度 (重複回答)

ト調査が必要となった。アンケートにおいて妊娠期の関心の高い項目は分娩に関することである。当院で取り入れているソフロロジー分娩法についてはより分かりやすい説明を求めている傾向にあり、実践を取り入れながら早期からの知識の普及が必要となってくる。呼吸法、リラクセス法の体験を取り入れることでイメージが湧き実際に役立つことができる。佐々木ら¹⁾は自分で産む意識や自分でできた実感を持つことで分娩に満足していたと述べている。満足感は、その後の育児への自信につながると思う。また、新生児についての知識要求も高い傾向にある。小児科医師からの専門的な話しや、沐浴などの疑似体験を取り入れる

ことは育児不安の軽減につながると思う。夫立会い分娩の条件については、夫の仕事の状況により受講できず立会いを断念する夫婦もいると思われる。すべての要求を取り入れていくことは難しいが、個別指導や休日の開催など、できる限り意向に沿っていく必要がある。

これまで当院では参加人数が30名前後と多数となる為、情報を伝達する講義スタイルが中心であった。池住²⁾は参加型学習では何が問題なのか、何故そうなのか、どうしたらよいか等、問題認識、問題分析、問題解決法を探索するのは「参加者」自身です。ファシリテーター^{3~6)}はこれを側面から支え、可能にする役割を担うと述べている。妊婦

の主体性・積極性をひきだすような、知識と技術の向上が必要となってくる⁶⁾。現在、雑誌やインターネット等の情報の普及により知識は個人で得られる様になった。母親学級が知識の習得だけでなく、友達づくりの場となり妊婦同志が共感できることは、不安の軽減につながる効果も期待できる。これらのことより10名前後の少人数制やサークル形式などコミュニケーションが取りやすい環境作りが必要である。妊婦とスタッフが共に作り上げていくことで母性意識を高めていくことにつながると思う。

結 論

- 1) 母親学級は少人数，体験型が望まれる。
- 2) 助産師はファシリテーターとして妊婦が主体的に進める為の技術，雰囲気づくりが大事である。

謝 辞

この研究をまとめるにあたり，ご指導，ご協力

いただいた皆様に感謝申し上げます。

文 献

- 1) 佐々木美喜，村上明美：「参加型」母親学級受講者の学び—分娩体験の振り返りから—。母性衛生 **43**：214，2002
- 2) 池住義憲：参加型学習とは何か？—より意味のあるファシリテーターになるために。助産雑誌 **58**：9-16，2004
- 3) 池住義憲：参加型学習とパウロ・フレイレノ教育思想。助産雑誌 **58**：17-23，2004
- 4) 池住義憲：参加型学習とは何か？—より意味のあるファシリテーターになるために。助産雑誌 **58**：9-16，2004
- 5) 金香百合：ファシリテーターとしての助産師—当事者を生き生き支援するために。助産雑誌 **58**：24-29，2004
- 6) 安藤広子・平澤美恵子：産前指導の考え方と進め方。母親学級・両親学級指導マニュアル，メディカ出版，24-32，2000